

# 経済・金融 フラッシュ

## マレーシア 7-9 月期GDP:

### 前年同期比+5.8%

～主力産業は低迷するが、一次産品の力が強い

経済調査部門 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

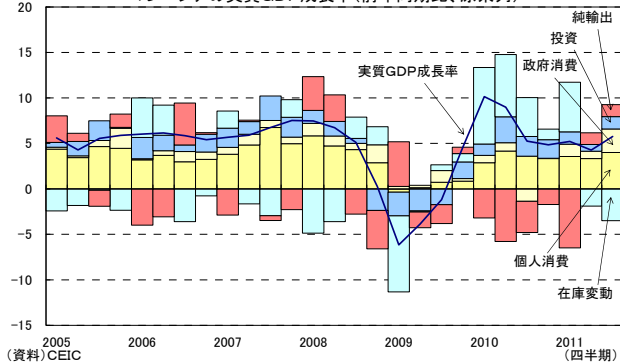
## 1. 現状:内需が良好、堅調な成長を実現

マレーシア統計庁(DOSM)は11月18日に7-9月期の国内総生産(GDP)を公表した。実質GDP成長率は前年同期比(原系列)で5.8%の増加となり、4-6月期の前年同期比+4.3%から成長が加速した。

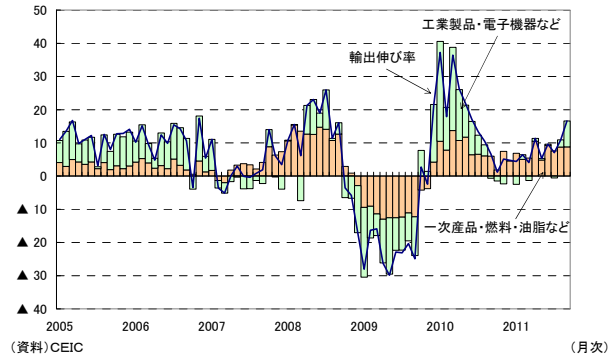
需要側の項目を見ると、内需が成長の原動力となったことが分かる。7-9月期における個人消費は前年同期比で+7.3%(4-6月期は同+6.4%)、投資は前年同期比+6.1%(4-6月期は同+3.2%)といずれも加速している。なお、内需では民間の個人消費や設備投資だけではなく、政府による支出や公共投資も成長を後押ししている<sup>1</sup>。外需については、7-9月期の輸出は前年同期比で+4.2%(4-6月期は同+4.1%)となり、先進国の成長鈍化にもかかわらず底堅い成長を実現した<sup>2</sup>。

供給側の項目では、4-6月期に引き続き、7-9月期もサービス業が前年同期比+7.0%と高成長を記録した(4-6月期は同+6.8%)。中でも、内需の強さを反映し、小売・卸売業が前年同期比+9.0%と好調だった。また、製造業も前年同期比+5.1%(4-6月期は同+2.6%)とペースを加速させている。特に、燃料や一次産品の加工業種(石油、化学、ゴム、プラスチック製品の製造)が前年同期比で+8.2%と成長を牽引した。なお、製造業のうち4-6月期に成長の重しとなっていた電気・電子産業は、7-9月期も前年同期比で▲0.5%(4-6月期は同▲3.6%)とマイナス成長が続いたが、そのマイナス幅は改善している。

(前年同期比、%) マレーシアの実質GDP成長率(前年同期比、原系列)



(前年同期比、%) マレーシアの輸出伸び率(寄与度)



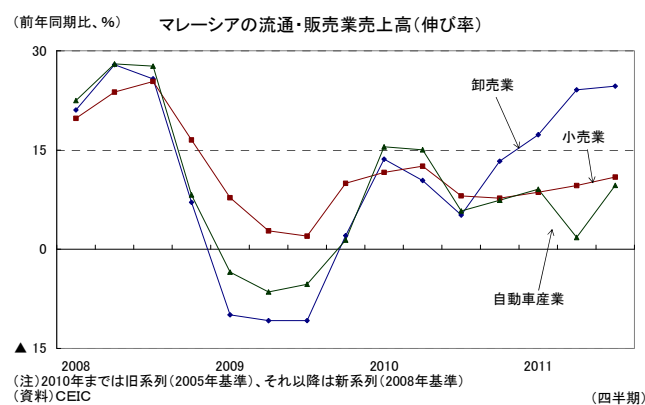
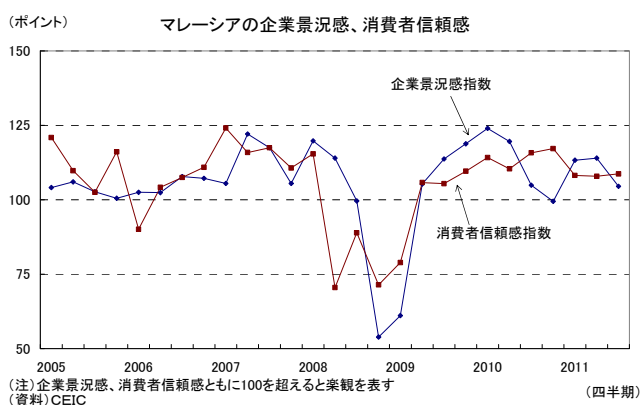
<sup>1</sup> 特に政府支出については前年同期比+21.7%(4-6月期は同+6.6%)と大幅増であった。

<sup>2</sup> 7-9月期の輸入は前年同期比で+3.2%(4-6月期は同+3.2%)でこちらも4-6月期と同じペースでの拡大となった。純輸出の成長への寄与度は1.3%ポイントで、4-6月期と同じだった。

## 2. 燃料・一次産品が防波堤に

欧州の債務問題など先進経済の低迷が続くなか、マレーシアは7-9月期も底堅く成長したといえる。近年の主力産業である電気・電子産業は低迷を続けている一方で、伝統的な燃料や一次産品の生産（錫や原油採掘などの鉱業、天然ゴム・パーム油・木材などの農林業）とその加工業が堅調に成長しているためである。輸出の動向を見ても、電気製品の低迷を燃料と一次産品の輸出がカバーしており、拡大を続けていることが分かる。マレーシアは、近隣のアジア新興国と比べて輸出依存度が高く、外需主導の経済ではあるが<sup>3</sup>、資源国としてのメリットを享受しており、成長率の大幅な鈍化は避けられていると言える。

こうしたメリットを受け、企業や消費者の景況感も良好さを維持している。燃料や一次産品の販売によって、卸売業の売上は堅調に推移しており、小売では家電量販店での販売が拡大を続けている。自動車については東日本大震災の影響もあって販売台数では5月から7月にかけては前年同期比でマイナス成長であったが、ここ数カ月はプラス成長に戻しており、底堅い需要がうかがえる<sup>4</sup>。



ただし、経済の急速な鈍化を避けたからといって、気を抜くことはできない。電子・電気産業の生産については大幅な回復が見込めておらず、電化製品の輸出は鈍化しており、成長の原動力は弱ったままであるからだ。

燃料や一次産品などの資源に依存した成長にはリスクもある。資源価格は国内の需給要因だけではなく、世界的な需給やその他の地政学的な要因によって変動しやすく、価格が下落した場合、生産や輸出量は減らなくても、収益が縮小し、景況感が悪化する可能性がある。

また、政府が内需を支えているという側面も無視できない。政府によって短期的に内需が支えられているのであれば、持続的な成長とはいえない<sup>5</sup>。公共投資が民間資金の呼び水となり、新しい産業を開拓したり、補助金が格差是正に結びつくなど、中長期的な成長を見込める支出を実施したりすることが重要である。

一次産品という強みが先進国経済の低迷に対する防波堤となっている間に、内需主導の経済を定着させるよう、政府主導で効果的な政策を行うことが必要となるだろう。

<sup>3</sup> マレーシアの輸出依存度(2010年)は84%で、タイ(61%)や台湾(54%)、韓国(46%)などの近隣の輸出主導国・地域と比べても高水準となっている。なお、インドネシア(22%)、フィリピン(23%)、中国(14%)、インド(27%)の輸出依存度はそれほど高くない。

<sup>4</sup> もっとも自動車生産・販売に関してはタイで発生した大規模洪水のために11月以降は再び縮小することが予想される。

<sup>5</sup> 与党が近く解散・総選挙を実施するのではないかと観測が強まっており、ナジブ首相率いる与党は選挙を有利に運ぶために補助金などのバラマキ型の政策を行う動機がある。実際、2012年度予算案にはこうした総選挙を意識した大衆迎合的政策が多く見られる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。